

## 珊瑚橋

さんごばし

北上市の中心から県道107号を東に走ると、道はすぐに北上川を渡る。その橋が珊瑚橋、開けた展望の向こうに珊瑚岳を望む。南部藩と仙台藩が境を接していたこの地点は、昔から交通の要衝であった。江戸時代には、河口の石巻から十日間を要して北上川を上ってくる大形船が、小形船に荷を積みかえる中継点として、南部藩第一の河港黒沢尻港のあったところである。

初めて橋が出来たのは明治40年（1907）、民間の投資で造られた有料の木橋であった。渡り賃はわずかだったが、それでもお金を払うのはバカバカしいと、流れの穏やかな季節には着物を頭にくくりつけて、泳いで渡る者もあったという。のんびりした昔の話である。

昭和8年に架け替えられた鋼橋は、古い木橋とは比較にならないほどの立派な橋であった。形式はカンチレバートラスといって、当時の日本の最新形である。カンチレバートラスというのは、一見するとトラスが一体に連続しているように見えるが、実は途中で蝶番があって、そこで吊径間が吊られているという構造である。中央径間の路面から、あるいは下流側に接して架けられている歩道橋から、この懸垂部の構造を観察することができる。

この橋の東詰一帯は展勝地と呼ばれ、北上市民の憩いの場として、また遠来の客を迎える観光地としてよく整備されている。河辺のプロムナード沿いの見事な桜並木が一斉に花開く春には「きたかみさくらまつり」、夏になると花火大会や灯籠流し、それに郷土芸能の鬼剣舞おにけんばいも見られるかもしれない。川を背景に、北上夜曲の碑も立っている。

展勝地の南にある「みちのく民俗村」も、一見の価値がある。各地から移設してきた藁葺き屋根の古民家十数戸を自然に配したもので、南部曲り屋あり、武家屋敷あり、水車も回っている。内部には古い生活道具が置かれていて、昔を偲ぶことができる。

南部藩と仙台藩の境をきめていた藩境塚は、この辺りから太平洋岸までの山中に点々と残っているが、どんなものか見るのであれば、北上駅やや南方の相去町を訪れるのが車の便がよい。地名の相去も、藩境のあった時代の名残である。

橋の話に戻るが、カンチレバートラス橋は昭和3年（1928）に四国の吉野川に架けられた穴吹橋あたりから始まって、日本各地に少なからず架設された。現代では、大阪の港大橋のような特殊なものを除いて架設例が途絶え、残っているものも少なくなりつつある。穴吹橋も平成4年に解体されてしまった。今は橋脚付近の長さ15mの部分だけが、穴吹町の公園の入口に記念として保存・展示されている。

〔NT〕

竣工年月：昭和8年（1933）

所在地：岩手県北上市

河川名：北上川

橋長・幅員：254.6m×7.0m

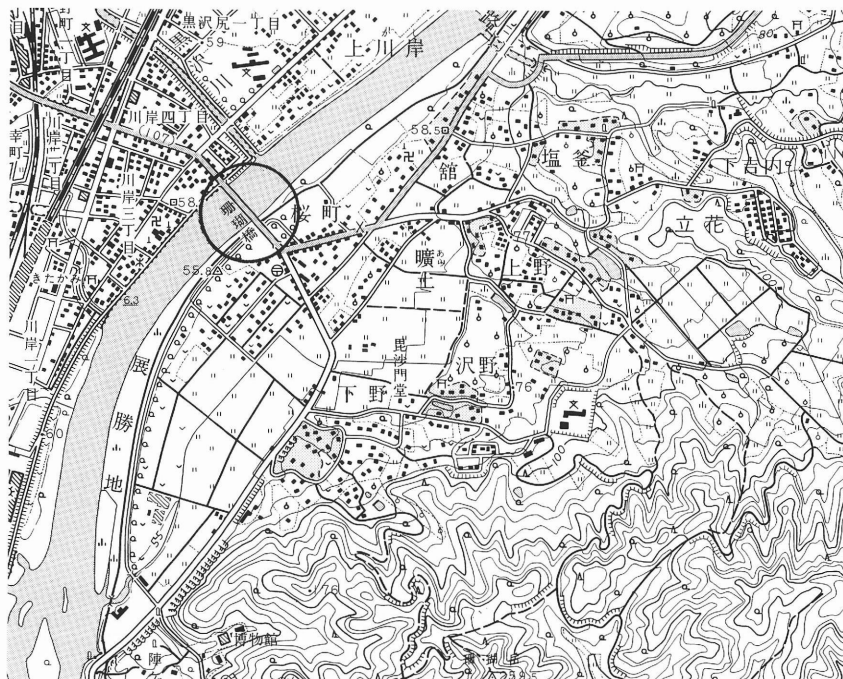
径間数・支間長：①48.0m+76.8m+48.0m、②6×13.5m

形式：①下路カンチレバートラス、②鉄筋コンクリート桁



下流側（写真の向う側）に斜張橋形式の歩道橋が添加されたが、シルエットが細いのでほとんど気にならない。

〈1994年4月10日，撮影・成瀬輝男〉



(1:25,000 口内)